

徳川家康公 と駿府

Tokugawa Ieyasu in Sumpu

経営コンサルタント

大前研一氏

Kenichi Ohmae



経歴

1943年、福岡県生まれ。早稲田大学理工学部卒業後、東京工業大学大学院原子核工学科で修士号、マサチューセッツ工科大学大学院原子力工学科で博士号を取得。世界の大企業やアジア・太平洋における国家レベルのアドバイザーとして活躍する一方、グローバルな視点と大胆な発想で提言活動を展開。著書は世界各国で読まれている。

組織経営者として極めて優れていた家康

私は歴史というのは、自分が生きる

ために、あるいは国の運営や会社の経営に、どう役立てるかという視点から学ぶものだと思っている。だから歴史上で『ほれている』人物はいない。ただ、『尊敬に価する』人物はいる。

徳川家康である。

尊敬に価する人物には二つのタイプがある。

まず、自分が同じ立場にいたとして、とてもこうはできないな、と感じてしまう人物。もう一つは、世界を見渡してもこんな奴はいないぞ、と思える人物である。どちらの点においても、家康は特筆すべき人物なのだ。

では、何が特筆すべきことなのか、私なりの解釈で六点ほどあげてみるこ

とにする。

まず第一点目に、若い頃に苦労している。三河の一向一揆、三方ヶ原での敗戦など、二〇代、三〇代でものすごく苦労している。そして辛抱強く二つひとつ克服して、同じ過ちは二度と繰り返していない。こうした点は現代のサラリーマンにも随分参考になると思う。

二点目に、交渉術に長けている。関ヶ原の合戦に代表されるように、周囲を寝返らせて最終的には自分が勝っていく。つまり、交渉術が非常にうまいのである。

三点目に、世界をよく理解している。たとえばキリスト教に対し、政教分離をきちんと行い、布教は制限しつ



駿府大御所時代の家康公像(駿府城本丸跡、制作:堤達男氏)